



結膜炎



結膜炎とは^{1, 2)} ～患者数の多い眼の病気～

結膜は、まぶたの裏側と眼球前方の白目の部分の表面をつないでいる薄い膜です。この結膜に起こる炎症を「結膜炎」と呼んでいます。

結膜は目を開いている間は常に外部と直接接しています。そのため、ウイルスや細菌、アレルギーの原因となる物質などの異物と接しやすく、また、手が触れやすいこともあり、何かと刺激を受けやすい部位です。

結膜炎は、原因によって**感染性**と**アレルギー性**に大別されます。

※アレルギーとは・・・

私たちの身体には、体内に入ってくる異物を排除しようとする働きがあり、この働きを「免疫」といいます。

この働きが過剰になった場合（例えば、普段は反応しない花粉などにも反応するなど）をアレルギーといえます。

■ 主な結膜炎

| 種類 | | 原因・特徴 |
|--------|--------------------|--|
| 感染性 | 流行性角結膜炎* (はやり目) | <ul style="list-style-type: none"> アデノウイルスによる感染が原因。 夏に流行することがある。感染力が強い。 |
| | 急性出血性結膜炎 | <ul style="list-style-type: none"> エンテロウイルスやコクサッキーウイルスが原因。 結膜の下の白目部分が出血で赤くなる。 |
| | 細菌性結膜炎 | <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ菌、肺炎球菌、黄色ブドウ球菌など細菌が原因。 感染力は強くないが、目に傷がついたり、抵抗力が落ちたりしている時に罹りやすい。 |
| アレルギー性 | アレルギー性結膜炎 | <ul style="list-style-type: none"> 花粉やダニ、ハウスダストなどによって起こされるアレルギー反応が原因。コンタクトレンズが原因となることもある。 |

※角結膜炎・・・「角膜」と「結膜」はつながっています。角膜は黒目の部分です。

いずれの場合も**主な症状は、白目やまぶたの裏の充血、かゆみ、めやに、異物感(目がゴロゴロする)、涙目、まぶたの腫れ**、などです。流行性角結膜炎では、目の症状だけでなく、のどの痛みや発熱といったかぜに似た症状(プール熱)に拡大することもあります。また、アレルギー性結膜炎では、くしゃみ、鼻水などの症状を伴うこともあります。

結膜炎の治療

結膜炎の原因が感染性かアレルギー性かによって、治療に使われる目薬が異なります。

さらに、感染性の場合、感染が細菌によるものか、ウイルスによるものかによって用いる薬が違います。

細菌性の場合、細菌を抑える「**抗菌薬**」の目薬による治療が基本となります(場合によっては眼軟膏や飲み薬が使われる)。

ウイルス性の場合、ウイルスに直接有効な目薬はありませんが、感染によって抵抗力が落ちている結膜にさらに細菌が感染しないように、予防的に「**抗菌薬**」が使用される場合があります。

細菌性、ウイルス性とも、不快な症状を和らげる目的で、炎症を抑える効果のある「**非ステロイド性抗炎症薬**」や「**ステロイド薬**」の目薬が使用されます。症状は、細菌やウイルスに対する体の抵抗力がついてくるにつれて治まり、1、2週間もすれば自然治癒することが多いです。

アレルギー性の場合、まずアレルギーの原因となっているものが何であるかをつきとめ、それを避ける必要があります。そのうえで、アレルギー反応を抑える「抗アレルギー薬」や、炎症を抑える「ステロイド薬」の目薬などが使われます。

■ 結膜炎の主な目薬

| 種類 | 働き | 主な薬 |
|-------------|---|--|
| 抗菌薬 | 細菌を抑える。それによって、患部の炎症がひき、充血や痛みも治る。 | クラビット点眼液 タリビット点眼液・眼軟膏 ベストロン点眼用 |
| 非ステロイド性抗炎症薬 | 炎症を引き起こす体内物質の合成を抑制して、炎症を抑える。 | ニフラン点眼液、 ブロナック点眼液 |
| ステロイド薬 | 炎症に関係する体内物質の働きを抑えるなどして、炎症を強く抑える。 | フルメロン点眼液 リンデロン点眼液 |
| 抗アレルギー薬 | アレルギー反応を起こす体内物質の働きを阻害することで、アレルギーに伴う症状を緩和する。 | リボスチン点眼液、パタノール点眼液、 インタール点眼液、リザベン点眼液 |

日常生活での対策¹⁾

いずれの結膜炎でも、目をこすったり触ったりしないことが大切です。症状を悪化させるだけでなく、感染性の結膜炎の場合は、感染の原因にもなるからです。また、結膜炎の原因となる細菌や物質が手につかないように、普段から、手をこまめに洗う習慣をつけることも大切です。

治療の目薬を使っている場合は、医師や薬剤師の指示通り正しく使いましょう。感染性の結膜炎の場合は、目薬の先端が目やまつ毛についてもう片方の目へ感染することを防ぐため、結膜炎の目だけにさす場合があります。

■ 感染性の結膜炎にかかった場合は、人にうつさないよう注意しましょう

- 使用するタオルを他の人と共有しないようにする。
- お風呂は最後に入るか、シャワーなどですませる。



■ アレルギー性の結膜炎では、アレルギーの原因をできるだけ避けましょう

例えば、花粉が原因の場合は・・・

- 飛散時期の外出時、メガネ、マスクなどを着用する。
- 帰宅時に衣類や髪に付いた花粉を払い落とす。
- 洗濯物、布団は花粉を払い落とすしてから取り込む。



ハウスダストなどが原因の場合は・・・

- 掃除機でこまめに掃除する。
- 布団なども掃除機で吸引するとよい。(排気を吸わないよう注意する。床用とアタッチメントを変えるとよい。)
- ホコリが溜まりやすい場所は、濡れ雑巾などで拭く。(畳や絨毯はダニが繁殖しやすいため、床はフローリングが望ましい)

【参考文献】

- 1) 参天製薬: 目の病気百科 <http://www.santen.co.jp/ja/healthcare/eye/index.jsp#a02>
- 2) 三和化学研究所: 目と健康シリーズ <http://www.skk-health.net/>